

第三次治水事業5ヵ年計画 発表さる

第三次治水事業5ヵ年計画は、計画年を昭和43年度から昭和47年度、その投資規模2兆500億円とすることについてすでに昭和43年3月22日閣議了解が行なわれたが、このほど具体的な事業内容について河川審議会の審議および関係各省庁の協議が終り、3月25日閣議決定された。

以下治水事業5ヵ年計画の事業概要について述べる。

1. 河川

(1) 直轄河川改修 国土保全上または国民経済上、特に重要な河川、主要な都市およびその周辺の河川、最近著しい災害の発生した河川等に重点をおき、約130河川の改修を促進する。

(2) 補助河川改修 主要都市およびその周辺の河川、大規模な宅地開発等他事業に関連して施行を要する河川、災害対策上重要な河川等に重点をおき、1600河川について改修を促進する。

(3) その他 東京・大阪等の高潮対策事業および都市の河川環境整備を推進するほか、維持修繕の強化を図る。

2. ダム

(1) 河川総合開発事業 洪水調節計画とあわせ、急増する水需要に対処するため、多目的ダムの建設を進めるほか、河口堰、湖沼開発施設の建設を促進する。このため直轄事業として特に大規模な事業について約70

ヵ所を実施し、補助事業として約70ヵ所を実施する。

(2) 治水ダム建設事業 局地的な集中豪雨に対処するとともに、あわせて渇水時における用水の確保に資するため、中小の河川に治水ダムの建設を推進し約130ダムの建設を推進する。

3. 砂防

(1) 直轄事業 国土保全上または国民経済上特に重要な河川および最近の災害により著しく荒廢した河川に重点をおき、約30水系について砂防および地すべり対策事業を実施する。

(2) 補助事業 砂防事業は約12000溪流について実施し、地すべり対策事業は約1000地区について防止工事を実施する。

首都高速道路の建設計画

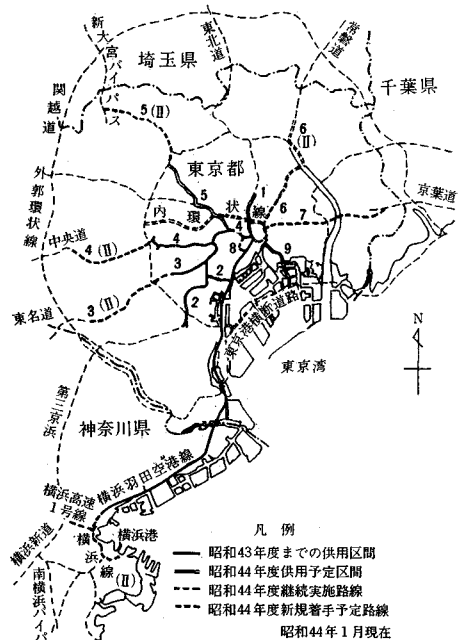
昭和44年度事業の高速道路について以下に記す。昭和43年11月末に横羽線の開通により首都高速道路の供用総延長は60.9kmとなり、その利用台数は1日平均約25万台に到達している。最高は、すでに31万台/日を突破した日もある状況で、利用度の高い道路網を建設できたことは喜ばしいが、一方急激な交通量の増大のために事故件数の増加、事故による交通渋滞のほかに自

表-1 治水事業5ヵ年計画

(単位 100万円)

区分	第1次5ヵ年計画(A)	第2次5ヵ年計画(B)	第3次5ヵ年計画(C)	(B)/(A)	(C)/(B)
治水投資	4000	11000	20500	2.75	1.86
治水事業	3650	8500	15000	2.33	1.76
河川	2040	5020	9000	2.46	1.79
直轄	1221	2952	4547	2.42	1.54
補助	819	2068	4453	2.53	2.15
ダム	810	1670	2800	2.06	1.68
直轄	617	1308	1725	2.12	1.32
補助	193	362	1075	1.88	2.97
砂防	730	1780	3150	2.44	1.77
直轄	138	320	670	2.32	2.09
補助	592	1460	2480	2.47	1.70
建設機械	70	30	50	0.43	1.67
地方単独および災害関連等	350	1500	3000	4.29	2.00
予備費	—	1000	2500	—	2.50
計画期間	昭和35~39	40~44	43~47		

図-1



然渋滞に近い状況も1号線および環状線等にもみられるようになってきている。44年度予算に取り上げられた内環状線は既定環状部分の北半分の補強的意味を持つものであり、東京港横断道路は都市計画決定済みの9号線の早期完成と相まって、埋立区域の開発促進のほかに1号線ならびに環状線東部の補強的な役割をもつものである

表—2 昭和44年度首都高速道路公団事業計画

(1) 首都高速道路建設計画

(単位:1000円)

事業箇所名	総事業費	43年度までの実施額	44年度		残事業費	着工年度	竣工予定年度	備考 (昭和44年度実施予定区間)
			契約計画額	予算額				
首都高速1号線	36700000	35390871	859129	1309129	0	34	44	台東区北上野～中央区日本橋本町
首都高速3号線(2期)	19700000	3907900	8496000	5749000	10043100	42	45	渋谷区大和田町～世田谷区上用賀
首都高速4号線(1期)	(48400000) 47180817	36011378	5329000	3881000	(8507622) 7288439	35	46	中央区八重洲6丁目～千代田区大手町2丁目
首都高速4号線(2期)	15700000	757000	3515000	1304000	13639000	42	46	渋谷区本町～杉並区上高井戸
首都高速5号線(1期)	26600000	23431232	1552568	3168768	0	36	44	千代田区西神田～墨田区池袋4丁目
首都高速5号線(2期)	21500000	100000	451000	416000	20984000	43	46	板橋区宮本町～板橋区前野町
首都高速6号線(1期)	(27800000) 25025143	13779543	[500000] 2855000	[500000] 6443000	(7577457) 4802600	36	45	中央区日本橋兜町1丁目～墨田区堤通
首都高速6号線(2期)	24300000	—	110000	100000	24200000	44	47	墨田区堤通付近
首都高速7号線	28100000	9690323	5330303	10954103	7455574	41	45	墨田区千歳～江戸川区谷河内町
首都高速内環状線	37000000	—	110000	100000	36900000	44	48	中央区日本橋両国付近
高速横浜羽田空港線(2期)	(24000000) 18171000	407000	4282000	2500000	(21093000) 15264000	42	46	横浜市中区新山下町～横浜市神奈川区千若町
横浜高速1号線	8500000	200000	[25000] 2674000	[25000] 975000	7325000	43	46	横浜市区高島通付近～横浜市神奈川区三ツ沢西町
予備費	(19462000) 20019000	—	—	—	(19462000) 20019000			
小計	(337762000) 328495960	136675247	[525000] 35564000	[525000] 36900000	(177186753) 167920713			
東京港横断道路(仮称)	21000000	—	100000	100000	20900000	44	49	大田区大井埠頭～江東区13号埋立地
予備費	4000000	—	—	—	4000000			
小計	25000000	—	100000	100000	24900000			
合計	(362762000) 353495960	123675247	[525000] 35664000	[525000] 37000000	(202086753) 192820713			

注:()は改訂要求中の事業費である。[]外書は負担金等受入工事である。

(2) 受託建設事業計画

(イ) 受託関連街路

事業箇所名	事業費	備考
首都高速3号線(2期)関連街路	241000	都市計画街路都市高速道路3号線付属街路1,2号線,同放射4号線
首都高速4号線(2期)関連街路	5510500	都市計画街路放射5号線
首都高速5号線(1期)関連街路	1041000	都市計画街路放射8号線,同環状5号線の1,同放射26号線,同放射7号線,同環状2号線
首都高速5号線(2期)関連街路	2013000	都市計画街路環状6号線,同放射9号線,同補助201号線,同都市高速道路5号線付属街路
首都高速6号線(2期)関連街路	48000	都市計画街路補助140号線,同補助113号線,同都市高速道路6号線付属街路
首都高速7号線関連街路	1004000	都市計画街路放射32号線,同放射15号線,同都市高速道路7号線付属街路1～6号線
首都高速内環状線関連街路	36000	都市計画街路環状2号線
小計	9893500	
高速横浜羽田空港線(2期)関連街路	1102500	横浜国際港建設計画街路広路1号高島市場線
合計	10996000	

(ロ) 受託占用工事

事業箇所名	事業費		備考
	契約計画額	支出計画額	
首都高速3号線(2期)	1300000	650000	世田谷区三軒茶屋町～同区駒沢

(3) 調査費 110000千円

る。建設事業費については、前年度比 11% 増の 370 億円が、新規事業としては、首都高速 6 号線（2 期）、同内環状線および東京港横断道路が認められた。これにより執行される 44 年度事業の路線別内容は表-2 のとおりである。

東海道新幹線三島駅誕生

東海道新幹線熱海～静岡間に新しく三島駅が完成し、4 月 25 日使用開始、特急「こだま」が停車することとなった。本工事は、昭和 43 年 4 日着工以来鋭意施工され、5 月の連休前に開業する運びとなったものである。工事の内容は島式ホーム 1 面（330 m）、乗降場土家その他で、現東海道本線三島駅との連絡地下道、連絡階段工事等が含まれている。

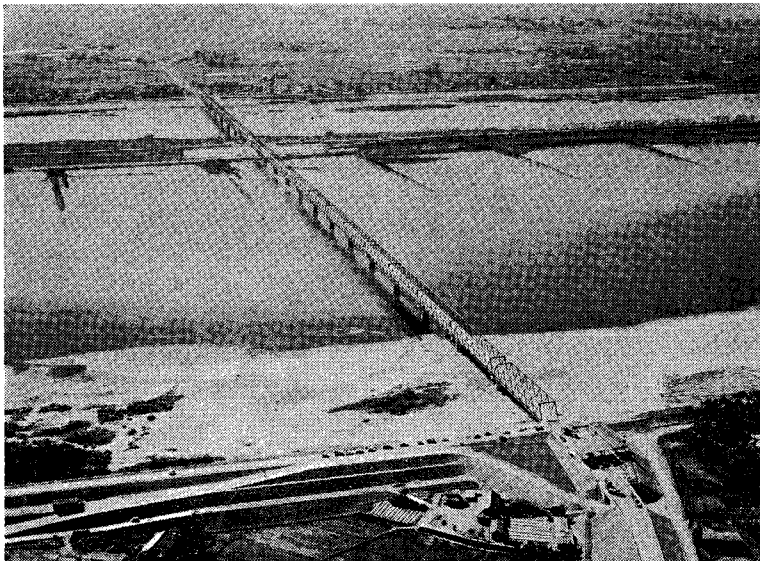
この結果、「こだま」の運転時分は、現行より 10 分延び、東京～新大阪間 4 時間 10 分となる。また、東京～熱海間の「こだま」も、すべて三島駅まで延長される。

三島駅の誕生により、伊豆長岡、修善寺など中伊豆へ一層便利になり、伊豆東海岸への周遊、西伊豆、箱根方面への観光客も多くなることが予想されている。

東海大橋完成

日本道路公団が建設中であった木曾川と長良川を跨ぐ東海大橋がこのほど完成し、昭和 44 年 4 月 19 日開通した。上流の濃尾大橋と下流の国道 1 号に架かる尾張大

完成した東海大橋



橋との間隔は約 25 km で、この間では両河川の横断ができなかったが、その中ほどに位置する本橋の完成により、中京経済圏の中心部と岐阜県南部が短絡されることになる。

河口から約 20 km 上流の本橋架設地点は厚い沖積層に覆われており、洪積砂礫層を支持地盤とする井筒基礎の長さは 41 m～48 m で刃口据付面からの沈下長は 50 m を越えた。井筒の形状は円形で直径は 6 m である。地下には、深度が増すにつれて空気ジェット、さらに荷重載荷を併用した。

上部工は支間 60.69 m および 59.36 m の平行弦単純ワーレントラスで、木曾川橋が 13 連、長良川橋が 7 連からなる。長良川橋の橋体はすべて 41 kg/mm² 級および 50 kg/mm² 級の耐侯性鋼材が使用されている。

なお、工事の概要は次のとおりである。

工事区間：愛知県海部郡八開村給父から岐阜県海津郡海津町秋江まで

延長：橋梁 1 227 m、取付道路 101 m

車道幅員：6.5 m

設計速度：50 km/h

事業費：11.5 億円

福田武雄博士日本工学会 会長に選ばれる

（社）日本工学会の総会がさる 4 月 25 日開かれ、万場一致で会長に福田武雄博士を選んだ。日本工学会は明治 12 年の創立で、わが国最古の学会の一つである。わが

国の工学系の代表学会として昭和の初めまでは、はなばなしく活躍した。昭和 4 年万国工業会議を東京に開いて世界各国の権威者を招いたのはその例の一つである。

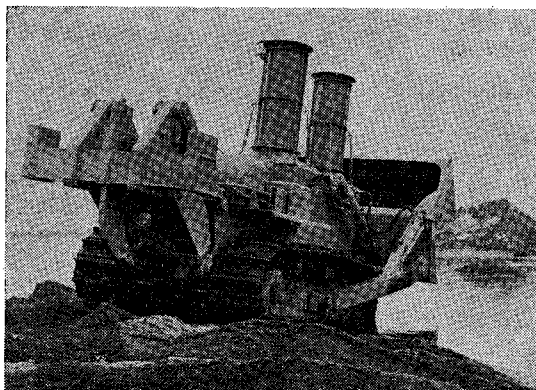
明治 34 年社団法人となったが、以後の歴代会長は、山尾庸三、古市公威、真野文雄、俵国一、佐野利器、大野巖、加茂正雄、丹羽保次郎、辻二郎、内田俊一の諸氏であり、土木からは古市公威氏に次いで 2 人目ということになる。工学会は 56 の学・協会が会員となっているが、それらの学・協会の会員数総計は 30 万人に達する。

なお福田博士は土木学会の第 52 代会長であり、東大名誉教授、千葉工大教授である。

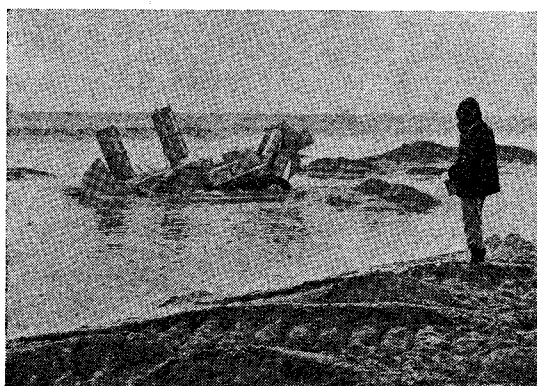
水陸両用ブルドーザーの開発 実用化に成功

昭和 43 年 10 月、建設省関東地建は京浜工事事務所管内において河床岩盤掘削・掘下げに使用する水陸両用ブルドーザーの開発を(株)小松製作所に発注したが、このほど完成したので、3月20日発表した。本機は、

水陸両用ブルドーザー



稼動中のブルドーザー



陸上の作業は、従来のブルドーザーと同様に行なえるほか、水中における作業も可能とすること(作業水深 3 m、岩盤のリッパ作業および排土作業が可能なこと)が基準として研究発表されたものである。本機の完成により今後の河川工事その他における施工法の進歩、工期の短縮化等への活用がまたれている。また今後の海洋資源開発機種足の足がかりとして期待されている。

本機の主な仕様は次のとおりである。

車両形式：履帯式ブルドーザー(水中、陸上両用無線操縦、リッパ付)

運転整備重量：陸上 約 36 000 kg

水中 約 25 000 kg

作業水深：3 m

機関出力：230 PS

走行段数：前進 3 段、後進 1 段

操縦方式：携帯式無線操縦装置で遠隔操縦する方式と車両に

乗車して電気系統を介して操縦する方式の 2 系統

が可能

無線操縦コントロール範囲：半径 100 m

無線操縦コントロール動作：23 種類

操作盤：携帯式

装備品：操縦船(10 PS)、音波測深器

昭和 44 年、春の叙勲決まる

4月29日発表された春の叙勲者のうち、勲4等以上をおくられた会員は次のとおりである。

名誉会員 岡田信次君 元会長、攻王社短期大学学長
勲3等旭日中綬賞

正会員 野坂相如君 日本新潟運輸(株)副社長
勲3等瑞宝賞

正会員 杉本金吾君 名古屋アサノコンクリート(株)会長 勲4等瑞宝賞

▶トンネル工学シリーズ 5

第4回トンネル工学シンポジウム

B5判・268ページ
1600円・会員特価
1800円(〒80円)

ソ連の地下鉄/アメリカのトンネル工事を視察して/アメリカにおける山岳トンネル工法/アメリカにおけるトンネル掘さく機/アメリカにおける都市トンネル/アメリカにおけるコンサルタント業務/アメリカにおける請負工事の諸事情について/アメリカのトンネル施工に関する新技術/欧州のトンネル工事を視察して/欧州におけるトンネル請負工事の諸事情について/欧州における山岳トンネル工法/欧州における掘進機について/欧州のシールド工事/欧州における地下鉄工事/欧州における沈埋工事